

2023 年度第1回支部集会【九州・沖縄支部】

主催：公益社団法人日本語教育学会

日時：2023 年 7 月 8 日（土）10:00～17:40（受付開始：9:30） [本催しのポスターはこちら](#)

会場：熊本学園大学 新1号館みらい（〒862-8680 熊本市中央区大江 2 丁目 5 番 1 号）

交通アクセス：<https://www.kumagaku.ac.jp/daigaku/map/access>

※駐車場に限りがありますので、公共交通機関を利用してお越しください。

※昼食は事前にご用意ください。当日、大学内のカフェテリア等が営業していません。

※当日は会場にて株式会社凡人社による書籍展示販売があります。

※会場では新型コロナウイルス感染拡大防止へのご協力をお願いします。

参加費：1,000 円（マイページより事前参加登録時に支払い） 定員：80 名

対象：日本語教育に関心のある方ならどなたでもご参加いただけます。

申込締切：2023 年 7 月 5 日（水）23:59（定員に達した場合は、締切日以前に締め切ります）

申込方法：[日本語教育学会マイページ](#) から事前参加登録をお願いいたします。

問合せ先：公益社団法人日本語教育学会 支部活動委員会

E-mail: shibu@nkg.or.jp TEL: 03-3262-4291（平日 9～18 時のみ）

◆支部集会日程◆

9:30	受付開始	【2 階 121 教室前】
10:00-16:30	書籍展示販売	【2 階 121 教室前】
10:00-10:05	開会挨拶	【2 階 121 教室】
10:05-12:00	パネルセッション	【2 階 121 教室】
12:00-12:45	休憩および控室	【2 階 121 教室】
12:45-14:25	口頭発表	【2 階 121 教室】
14:30-16:00	ポスター発表	【4 階 14A・14B・14C 教室】
	交流ひろば（第 1 部）	【4 階 141 教室】
16:00-17:30	交流ひろば（第 2 部）	【4 階 14A・14B・14C・141 教室】
17:30-17:40	閉会挨拶	【2 階 121 教室】

開会挨拶

【10:00-10:05 / 2 階 121 教室】

パネルセッション

【10:05-12:00 / 2階 121教室】

「地域に根差したグローバル人材育成の実践」

熊本 外国人技能実習生との交流による日本人大学生の意識の変化 塩入すみ氏(熊本学園大学)

熊本のような人口高齢化の進む地方において外国人技能実習生は増加の一途を辿っているが、彼らが同世代の日本の若者と接触する機会は非常に少ない。実習生と日本人大学生が接触・交流する機会を設けることで、大学生の意識はどのように変化するのか、昨年から行なっている実践の経過を報告する。

沖縄 琉球大学の日本語教育と地域貢献 —留学生×日本人学生×地域(西原町役場・高校生)の共修 PBL— 山元淑乃氏(琉球大学)

琉球大学では、地元である西原町と連携し、留学生・日本人学生・役場職員・西原町在住高校生が、地域の多様性理解を目的とした「グローバルフェスティバル」を企画・運営する PBL を通じて、外国人労働者と地域の間に入れる「グローバルリーダー」の育成を目指している。本発表ではその実践と課題について報告する。

福岡 コミュニティ・デザインによる日本語教室づくり —若い世代が立てた企画とその実践に着目して— 深江新太郎氏(NPO 多文化共生プロジェクト)

日本語教室は外国籍住民とのつながりを生んでいく場である。現在、地方公共団体による日本語教室の開設が進められ、そのプロセスは、地域住民が企画を立てながら新たなつながりをつくっていくコミュニティ・デザインと捉えることができる。本発表では、日本語教室に参加する中高生の企画に着目し、結果としてどのようなつながりが生まれたかを紹介する。

休憩

【12:00-12:45 / 飲食は 2階 121教室】

※1階スチューデントcommonsでの飲食はお控えください。休憩は可能です。

口頭発表

【12:45-14:25／2階 121教室】

※本発表は査読審査を経た学会発表です。発表要旨は本プログラム p.6～, 詳細は予稿集原稿をご覧ください。

① 12:45-13:15

授業内多読活動で見られた自己調整学習プロセスの分析
—中級・中上級レベルの日本語学習者を対象とした理論化に向けて—
八木真生(法政大学)・加藤みゆき(キッズドア)

② 13:20-13:50

厩舎で働く外国人スタッフに求められる日本語
—調教師へのインタビューによる予備調査—
野原ゆかり(獨協大学)

③ 13:55-14:25

知識構成型ジグソー法を用いた CBI の実践報告
—予習として資料を読ませたことの効果—
小山 悟(九州大学)

ポスター発表

【14:30-16:00／4階 14A・14B・14C教室】

※本発表は査読審査を経た学会発表です。発表要旨は本プログラム p.7～, 詳細は予稿集原稿をご覧ください。

① 外国につながる子どもたちの支援

【14A 教室】

—保護者の支援とペダゴジカルドキュメンテーションの試み—
銭坪玲子(鎮西学院大学)・桑戸孝子(長崎総合科学大学)・宮崎聡子(関西学院大学)

② 美容師国家試験の語彙の計量的分析

【14B 教室】

—美容師を目指す留学生のための教材開発をめざして—
山元一晃(金城学院大学)

③ オンライン日本語ティーチングアシスタントのモチベーション変化の分析

【14C 教室】

—日本語教育を主専攻とする大学生 A を事例として—
下村朱有美(大阪大学)・笹川史絵(同)

交流ひろば(第1部)

【14:30-16:00/4階 141 教室】

※「交流ひろば」は、日本語教育とその関連領域の話題についての参加者相互の情報共有および同じ興味や問題意識を持つ者同士のネットワーク作りを目的としています。審査を経た学会発表ではありません。「交流ひろば」への出展は、学会員・非会員に限らずどなたでも可能です。

① 九州・沖縄で子どもの日本語教育で繋がる「kyuoki 会」のあゆみ

岩崎千恵(福岡教育大学)・鷹野恵(筑紫女学園大学)・河野恒子(福岡 YWCA)・
田尻由美子(九州大学)・立山愛(多文化に生きるこどもネットワーク大分)・
田中あや(佐賀市立成章中学校)・當房詠子(梅光学院大学)・
栃原玲子(立命館アジア太平洋大学)・早瀬郁子(宮崎国際大学)・松永典子(九州大学)・
守山恵子(福岡女学院大学)・安田享子(熊本市立城南小学校)・
吉田優子(外国から来た子ども支援ネットくまもと)

この出展は九州・沖縄各県で児童生徒等への日本語教育に従事する仲間が集う「kyuoki 会」のご紹介です。「kyuoki 会」は文化庁委託「日本語教育人材の研修プログラム普及事業」の一環として、令和2年度に実施された「児童生徒等に対する日本語教師【初任】研修」(日本語教育学会事業)の九州・沖縄ブロックでともに学んだ初任コース修了者のうち 24 名および講師育成コース8名、そして両コースに関わった講師等9名で作られた会です。研修終了後の 2021 年4月から SNS を利用して情報交換を行うかたわら、月に1度オンライン交流会を現在まで途切れることなく継続してきました。この2年間のあゆみと成果をご紹介します。

② 日本語学習教材における合成音声の実用性

—「やさしい日本語でまなぶ介護専門用語集」の実例を基に—

中川健司(横浜国立大学)

出展者の研究グループは、外国人介護従事者向けの教材開発を行っています。今回合成音声作成ソフトを用いて、ウェブサイト「やさしい日本語でまなぶ介護専門用語集」に音声コンテンツを追加する試みを行いました。当日は、日本語学習教材における合成音声の実用性や活用の可能性について意見交換を行いたいと思っています。興味のある方はぜひお越しください。

交流ひろば(第2部)

【16:00-17:30/4階 14A・14B・14C・141 教室】

③ 熊本の技能実習生・高校留学生に対する日本語サポートの実践と課題 【14A 教室】

古閑華恋(熊本学園大学大学院生)・松本新花(同)

私たちは昨年より熊本在住の技能実習生や高校の留学生に日本語のサポートを行ってきました。今回の交流広場ではこの活動を紹介するとともに、活動により明らかになった課題について、皆さんと議論できることを期待しています。ぜひお越しください。

④ 「できる」に繋げるための文字・語彙学習について考えよう **【14B 教室】**

石澤徹(東京外国語大学)・岩下真澄(福岡女子大学)・桜木ともみ(国際基督教大学)

学習者が学んだ語彙を運用に結び付けられるようにするために、先生方はどのようなことに気をつけておられますか。「語彙学習と漢字学習の関係」「読解学習でのルビや注釈」「オンライン授業での工夫と困難点」など、出展者や参加者の皆さんの実践例を共有しながら考えてみたいと思います。興味のある方はぜひお越しください。

⑤ 漫才づくりを通した子どものコミュニケーション能力育成講座 **【14C 教室】**

松永典子(九州大学)

本講座は、吉本興業のプロの漫才師と協働で企画・実施した漫才作成講座です。漫才づくりを通したコミュニケーション能力の育成は子どもだけでなく、留学生対象の日本語教育としても行われています。漫才を使ったコミュニケーション活動のさらなる可能性を参加者のみなさまと一緒に考えたいです。興味のある方はぜひお越しください。

⑥ 実践紹介:日本語指導が必要な子どもたちと Co Learners の1年間の歩み **【141 教室】**

立山愛(多文化こどもネットワークいろは)・大友将人(立命館アジア太平洋大学学部生)・飯塚朱里(同)・竇文絵子(同)

私たちは大阪府別府市内の小学校で日本語指導が必要な子どもたちのサポートをしている大学生です。子どもたちが、言語や文化の差異を前向きに捉え、在籍学級で安心して本来の自分を解放して過ごし、気持ちを出し合える交友関係を築くことを目指し、「Co Learner(共同の・学習者)」として活動しています。Co Learner として入り込み支援することの意義と可能性について考察します。

⑦ 日本語教師の心構えと省察力を身につけるケース学習の開発 **【141 教室】**

鴈野恵(筑紫女学園大学)・香月裕介(神戸学院大学)・佐々木良造(静岡大学)

日本語教師に必要な知識や技能は養成課程の授業で身につけられます。しかし、態度すなわち心構えはどのように学んでいけばいいのでしょうか。日本語教師の態度は多様な経験と省察を通して培われるとされますが、養成課程ではなかなか難しいのが実情です。そこで、わたしたちは日本語教師がぶつかる壁をケースとして作成して、大学養成課程、養成講座、ボランティア講座で疑似体験の場を創造するという研修を開発しました。その様子をシェアするとともに、同じ問題意識を持っている方々と一緒に意見交換をしたいと考えています。興味のある方はぜひお越しください。

閉会挨拶

【17:30-17:40/2階 121 教室】

[2023 年度第 1 回支部集会(熊本学園大学, 2023.7.8)口頭発表①]

授業内多読活動で見られた自己調整学習プロセスの分析

—中級・中上級レベルの日本語学習者を対象とした理論化に向けて—

八木真生・加藤みゆき

多読は、読み物や読み方の選択が学習者に委ねられた活動であることから、二宮（2014）等で動機づけの向上や自律学習の促進の効果があるとされている。しかし、自律学習に至るプロセスを明らかにした先行研究は見当たらない。そこで本研究では、多読における学習プロセスの理論化に向け、試論として、多読の授業を履修した中級レベルの学習者 1 名の語りを分析する。自律学習のプロセスを説明する理論として、Zimmerman（1986）の自己調整学習（self-regulated learning）を用いる。学期終了後に行ったインタビューを分析し、多読を通して獲得した読みのストラテジーや学習方法についての考えについて、順序や因果関係を整理し、学習プロセスを明らかにした。その結果、学習者は、自己調整学習を通して読みの上達を実感し、多読による学習の意義を徐々に理解し動機づけを高めていた。さらに、自身の最終ゴールに向けた学習の進め方について俯瞰的・長期的視点を持つに至ったことが確認された。

（八木—法政大学，加藤—キッズドア）

[2023 年度第 1 回支部集会(熊本学園大学, 2023.7.8)口頭発表②]

厩舎で働く外国人スタッフに求められる日本語

—調教師へのインタビューによる予備調査—

野原ゆかり

厚生労働省の最新の統計では、外国人労働者数が過去最高を更新している。外国人労働者は各産業に見られ、第 3 次産業の競馬でも厩舎で働く外国人スタッフ（厩務員）が目立つようになってきた。厩務では、在留資格の「技能」と「技能実習」で就労者が見られる。このことから、厩舎での就労経験が厩務員としてのキャリア形成につながる可能性が窺える。本研究では、厩舎という特殊な就労現場でどのような日本語が求められるのか、また日本語習得とキャリア形成との関係を探る研究の足がかりとして、地方競馬の厩舎を対象に調査を行った。調査の結果、馬の管理に関する報告等の専門技術に基づく日本語が求められ、競走馬を扱う上でその重要性が窺えた。一方、調教師との交渉等のやりとりではエージェントの通訳の支援があり、そのレベルの日本語は調教師へのインタビューからも、外国人スタッフのアンケートの回答からも必要だという考えは認められなかった。

（獨協大学）

[2023 年度第 1 回支部集会(熊本学園大学, 2023.7.8)口頭発表③]

知識構成型ジグソー法を用いた CBI の実践報告

—予習として資料を読ませたことの効果—

小山 悟

本発表は、コンテンツベースの日本語授業（CBI）に知識構成型ジグソー法（三宅 2011）をベースにした「教え合い」と「話し合い」の活動を導入することで、学生たちの批判的思考を促す新たな教授法を開発しようとする研究の第二弾である。今回の調査では、前回（小山 2023）の反省を踏まえ、それまで授業内で行っていた資料の読解を事前に予習として行わせることで、より多くの時間を教え合いと話し合いの活動に使えるようにした。その結果、エキスパート活動では（前回のような）無言の時間が長く続くといったことはなくなり、ジグソー活動でも資料の説明に手間取ることなく、話し合いが活発に行われるようになった。また、講義の聞き方に関する質問紙調査でも平均値が事前・事後で有意に上昇しており、その差も前年度より大きくなっていった。反面、各回の「まとめ」の記述には学生独自の考えや解釈を示したものは見られず、「思考の深さ」という点で課題が残った。

（九州大学）

[2023 年度第 1 回支部集会(熊本学園大学, 2023.7.8)ポスター発表①]

外国につながる子どもたちの支援

—保護者の支援とペダゴジカルドキュメンテーションの試み—

銭坪玲子・桑戸孝子・宮崎聡子

本ポスター発表では、外国につながる子どもたちと保護者の支援の取り組みの事例を報告し、外国につながる子どもたちの支援の現場に、近年、幼児教育分野で注目されつつあるペダゴジカルドキュメンテーションを導入する試みについての提案をする。筆者らは、X 市の小学校に転入してきた外国籍児童 2 名とその保護者の支援を約 2 年にわたり、実施してきた。支援を続けるなかで、子どもたちの支援現場を直接目にするこのない保護者も、子どもの学びにより積極的に関わることができるような包括的な支援のかたちが必要ではないかと思うようになった。子どもたちの学びにおけるドキュメンテーションを媒介とし、教育・学習過程をリアルタイムで共有することで、保護者が教育により参加しやすい環境を整えることができる。そして、共に学びのストーリーを構築する当事者として保護者を包摂することで、より効果的な支援ができるのではないかと考えている。

（銭坪—鎮西学院大学, 桑戸—長崎総合科学大学, 宮崎—関西学院大学）

[2023 年度第 1 回支部集会(熊本学園大学, 2023.7.8)ポスター発表②]

美容師国家試験の語彙の計量的分析

—美容師を目指す留学生への教材開発をめざして—

山元一晃

本発表では、美容師国家試験の筆記試験の語彙を分析し、留学生が合格するために必要な語彙知識を明らかにすることを目的とする。まず、第 41 回(2020 年 3 月)から第 46 回(2022 年 9 月)までの過去 6 回分の美容師国家試験の筆記試験を文字化し、形態素解析を行った。次に、BCCWJ の短単位語彙表と対照させて特徴的な語彙を抽出した。また、美容師国家試験の語彙を日本語教育語彙表と対照させて日本語教育で扱われる語彙の範囲を検証した。その結果、特徴的な語彙として、「設問に用いられる語」「美容師の業務に直接関わる語」「公衆衛生に関わる語」「物質名」などがあることが分かった。また、美容師国家試験は、語彙の観点からは比較的容易であり、中級程度から専門語彙の学習が可能であることが分かった。今後は、養成施設での教科書や授業などで必要とされる語彙についても検討していく必要がある。

(金城学院大学)

[2023 年度第 1 回支部集会(熊本学園大学, 2023.7.8)ポスター発表③]

オンライン日本語ティーチングアシスタントのモチベーション変化の分析

—日本語教育を専攻とする大学生 A を事例として—

下村朱有美・笹川史絵

本研究では、オンラインで活動した日本語ティーチングアシスタント(以下、TA とする)のモチベーションの変化に焦点を当てて分析を行った。調査対象とした TA は、海外の日本語教育機関での日本語教育活動に日本からオンラインで TA として参加した。オンラインを介した活動であったことから日本語学習者との接触時間が限定され、TA として活動できる機会が少なかったこと等がモチベーション低下の要因となっていたことが明らかになった。一方で、これらの要因は日本語学習者よりも多く接触の機会を持つために授業外活動を企画するという TA の自発的行動となり、モチベーションが向上したことがうかがわれた。また、本稿で調査対象とした TA はオンライン TA 活動に参加後、海外に出向いて TA 活動を行うことを計画しており、海外での TA 活動においてオンライン TA 活動で達成できなかったことを実行しようというモチベーションにつながっていた。

(大阪大学)

以上